

「金持ち」

マルコの福音書 10:17～31

はじめに

前回の箇所では、イエシュアのみもとに子どもたちが連れて来られましたが、今回は一人の「金持ち」が現れます。みなさんはこの「金持ち、お金持ち」という言葉、そのように呼ばれる人々に対してどのような印象をお持ちでしょうか。「金持ち」な人を見ると、きつとうらやましい、妬ましい気持ちになることでしょうか。漫画ドラえもんに登場するスネ夫、ちびまる子ちゃんの花輪君、花より男子の道明寺司、こちら葛飾区亀有公園前派出所の中川圭一などはそのようなキャラクターとして有名です(?)が、どれもあまり良い性格の持ち主とは言えません(個人的には好きですが)。一般的に「金持ち」は強欲、わがまま、傲慢で、いつでもどこでも誰に対しても王様気取りで偉そうにいばっているような、そんなイメージを持たれがちです。では聖書における「金持ち」はどうでしょうか。もちろん聖書の中にも今挙げた一般的なイメージどおりの金持ちも何人かは登場しますが、聖書に記された最初の「金持ち」と呼ばれるような存在、それはイスラエルの父祖アブラハムです。彼は見た目にも非常に多くの財産を持っていたことが記されています(創世記 13:2)、神は彼が見渡したすべての土地を与え(創世記 13:15)、また彼の子孫を「地のちりのように(創世記 13:16)」また「星のように(創世記 15:5)」増やすと約束しておられます。そしてさらに「地のすべての部族はあなたによって祝福される(創世記 12:3)」とも言われ、地上の全人類を彼の手に委ねることまでも約束されました。ちなみに聖書における富、財産、宝とはお金や物、家畜ばかりではなく、人材つまり人、特に家族、子孫、そして土地です。このように、聖書が提示する本来の「金持ち」についての概念、イメージは、私たちのそれとは桁違いで、スケールが、次元が違います。そして何よりアブラハムに指し示された聖書における本来の「金持ち」像には、神の選び、神のご計画が密接に関係しています。ですからそのような視点、観点で「金持ち」という存在を捉えるならば、今日の箇所はどのように読み取ることができるのか、ということについて述べていきたいと思います。

1. 戒めを守る

マルコの福音書【新改訳 2017】

10:17 イエスが道に出て行かれると、一人の人が駆け寄り、御前にひざまずいて尋ねた。「良い先生。永遠のいのちを受け継ぐためには、何をしたらよいでしょうか。」

10:18 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『良い』と言うのですか。良い方は神おひとりのほか、だれもいません。」

10:19 戒めはあなたも知っているはずですが。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。だまし取ってはならない。あなたの父と母を敬え。』

10:20 その人はイエスに言った。「先生。私は少年のころから、それらすべてを守ってきました。」

イエシュアのみもとに一人の人がやって来ました。彼は「駆け寄り」とありますが、ここに使われている「走る」という意味のヘブル語ルーツ(רץ)は本来、創世記 18:2 でアブラハムが神を自分の家に迎えるために走って行ったという出来事を指す言葉です。ですから結論から言いますと、イエシュアのみもと

にルーツ、走って来たこの一人の人の姿には、聖書で最初の「金持ち」であるアブラハムと、その子孫たちであるイスラエルの民の「型」が表わされていると考えられます。彼はイエシュアを「良い先生」と呼びました。そしてイエシュアが「良い方は神おひとり」と言われました。ここには、やがてイスラエルの民がイエシュアをまことの神として呼び求めるようになることが表されていると考えられ、その人はイエシュアに向かって「私は少年のころから、それらすべてを守ってきました。」と言っていますが、実際にはイエシュアをイスラエルの神として受け入れるようになった時に初めて、彼らイスラエルは神の「戒め」の「それらすべてを守って」生きることができるようになるのです。こう預言されているとおりです。

エレミヤ書【新改訳 2017】

31:27 「見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に、人の種と家畜の種を蒔く。

31:28 かつてわたしが、引き抜き、打ち倒し、打ち壊し、滅ぼし、わざわざを下そうと彼らを見張っていたように、今度は、彼らを建て直し、また植えるために見張る——【主】のことば——。

31:31 見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。

31:33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——【主】のことば——。**わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。**わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

ではどのようにしてこの預言は成就するのでしょうか。次にそれが指し示されています。

2. 一つ

マルコの福音書【新改訳 2017】

10:21 イエスは彼を見つめ、いつくしんで言われた。「あなたに欠けていることが一つあります。帰って、あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」

10:22 すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。多くの財産を持っていたからである。

イエシュアは彼を「見つめ…」とあります。ここに使われている「目を留める、見る」という意味のナーヴァト(נָבַט)は本来、「天を見上げ、星を数える」という意味で使われ、それはアブラハムの子孫イスラエルの民を直接的に指し示す言葉です(創世記 15:5)。また「いつくしんで」と訳された「愛する」という意味のアーハヴ(אַהַב)もまた本来は、アブラハムの「愛している子」(創世記 22:2)を指し示す言葉であり、イエシュアがその人の中にイスラエルの民の姿を見ておられることがわかります。そしてイエシュアはその彼にこう言われました。「あなたに欠けていることが一つあります」と。ここに使われている「一つ」という意味のエハード(אֶחָד)という言葉は本来、神の天地創造の御業の「第一日」、すなわち神が光を呼び出され、そしてこれを「良い」ものとして見られ、すなわちご自分のものとされ、闇と分けら

れたという出来事を表す言葉です（創世記 1:5）。つまり神ご自身が天と地を創造されたように、人の手によってではなく、ただ神ご自身の選びによってイスラエルの民をご自分のもの、ご自分の所有の民、聖なるものとし、光と闇を分けられたように、それをはっきりと区別、聖別されること、すなわち「神の国」の民とそうでない者、滅びる者とを分ける、すなわち神が人を裁かれるということ、その成就となる出来事が「欠けている」つまりまだ起こっていない、行われていないということなのです。そしてその欠けが補われるために必要なこととして、イエシュアは「**貧しい人たちに与えなさい**」と言われました。イエシュアのみもとに走って来たその人がイスラエルの民を指している「型」であるならば、この「**貧しい人たち**」とは、私たち教会を指し示すと考えられます。イスラエルの民が「**持っている物**」とは、神の民としての選びです。それが私たち教会にも等しく分け「**与えな**」ければならないということがここには表されていると考えられます。

さらにここで使われている「与える」という意味のナータン(נָתַן)は本来、「(天の大空に)置く」という意味を持った言葉なのです（創世記 1:17）。私たち教会を天の大空、空中に置く、すなわち地上から空中に上げられることとは何でしょう。それはイエシュアの空中再臨によって起こる、教会の携挙であると考えられます。つまりイスラエルの民がイエシュアを神とし、神の戒めを守り行う神の民となるためには、まず先に教会が携挙されなければならない、ということがここには表されていると考えられるのです。さらにイエシュアが言っておられる「**天に宝を持つことになりま**す」というこの御言葉もまた同様に、教会が携挙され、神の選びの民、まさに神の「**宝**」の民として天に引き上げられることを言い換えて、繰り返し強調して指し示しておられると考えられます。そしてこの教会の携挙の後、地上に残されたイスラエルの民、ユダヤ人とも呼ばれる彼らは、大きな患難の中に突入していきます（マタイの福音書 24:21）。その様子が次の「**すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。**」という記述に「型」として表されていると考えられます。今日もなお、多くのユダヤ人たちはイエス・キリストすなわちイエシュアがイスラエルの神の御子メシアであることを信じません。教会の携挙の後に起こる大患難、すなわちユダヤ人に対する世界的な大迫害、かつて世界史の中で行われてきた数々のユダヤ人差別、迫害、それらをはるかに上回る大きな「**悲しみ**」の中で、彼らは悔い改め、ついにイエシュアを神として仰ぎ見るようになるのです（ゼカリヤ書 12:10）。

ですからここに記された出来事は、単に貧しい人たちに親切にしてあげなさい、というような慈善活動の勤めではなく、またイエシュアを信じるには全財産を売り払わなければならないよ、というような極端な教えでもなく、イスラエルと教会に対する神のご計画が指し示された、表された「型」であると考えられます。

3. 神にはできる

マルコの福音書【新改訳 2017】

10:23 イエスは、周囲を見回して、弟子たちに言われた。「**富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。**」

10:24 弟子たちはイエスのことばに驚いた。しかし、イエスは重ねて彼らに言われた。「**子たちよ、神の国に入ることは、なんと難しいことでしょう。**」

10:25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」

10:26 弟子たちは、ますます驚いて互いに言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」

10:27 イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神は違います。神にはどんなことでもできるのです。」

ですからここでイエシュアは「金持ち」は強欲なので「神の国」に入るのは難しい、相応しくない、入ってはならない、というようなことを言っておられるのではないのです。イスラエルの民がそうなるのは難しい、彼らが自分たちの力や行いによってそこに入るに相応しい者となることは難しい「それは人にはできないことです」ということを表して言っておられるのです。しかしここでイエシュアはこうも断言しておられます。「しかし、神は違います。神にはどんなことでもできるのです」と。本来ならばイスラエルの民はとっくの昔に滅びて当然の民です。なぜなら彼らは神に選ばれながら、その神に逆らい、その教えを捨て、他の神々、また人の力に頼り、神の預言者たちを殺し、ついにはその御子であるイエシュアさえも十字架にかけて殺してしまうからです。これらの罪に対して彼らに弁解の余地はありません。なぜなら聖書の中に、彼らが今も読み、神の御言葉として信じている聖書の中に、彼らの犯した罪の数々が事実としてははっきりと記されているからです。そんな彼らイスラエルの民を、今日もおイエシュアを受け入れない、頑なな心を保つこの民を、誰が悔い改めさせて、そしてそのすべての罪を贖って赦し、「神の国」の民とすることができるのでしょうか。確かに「それは人にはできないことです。しかし神は違います。神にはどんなことでもできるのです。」イエシュアには、この御方だけが、それが可能なのです。なぜならイエシュアは神と一つであり、イエシュアは神だからです（ヨハネの福音書 1:1）。

ですからイエシュアにとって「らくだが針の穴を通る」ことは造作もないことなのです。この「らくだ」ヘブル語のガーマル(לַמָּל)は本来、アブラハムに与えられた富、財産を指し示す言葉です（創世記 12:16）。そしてこの動詞形ガーマル(לַמָּל)は本来「乳離れする」という意味で、成長した彼の息子イサクを指す言葉なのです（創世記 21:8）。そしてさらに「穴」ネケヴ(בְּקֶבֶב)についてですが、これは旧約聖書でたった一回しか使われていない言葉ですが、それは以下のものです。

エゼキエル書【新改訳 2017】

28:13 あなたは神の園、エデンにおいて、あらゆる宝石に取り囲まれていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、縞めのう、碧玉、サファイア、トルコ石、エメラルド。あなたのタンバリンと笛は金で作られ、これらはあなたが創造された日に整えられた。

ここで「笛」と訳されているのがネケヴです。そしてそれは「神の園、エデン」に置かれるものであることが記されています。つまり「らくだが針の穴を通る」とは、アブラハムとその子孫は、回復された「神の園、エデン」としての「神の国」に入るという神のご計画を指し示した御言葉であると考えられます。ちなみに「通る」という意味のアーヴァル(עָבַר)はイスラエル人の別称「ヘブル人」を意味するイヴリー(עִבְרִי)の語源で、これもまたイスラエルを指し示す言葉なのです。

このようにイエシュアは、「**金持ち**」は「**神の国**」に入るのは難しいが、神にはできるといふようなことを言っておられるのではなく、神のイスラエルに対する救いの御業、ご計画が決して人の手によるものではないこと、すなわちただ神ご自身によるものであること、そしてそれが天地創造の初めに定められた、絶対的なものであることを指し示しておられるのだと考えられます。

4. 迫害

マルコの福音書【新改訳 2017】

10:28 ペテロがイエスにこう言い出した。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。」

10:29 イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子ども、畑を捨てた者は、

10:30 今この世で、迫害とともに、家、兄弟、姉妹、母、子ども、畑を百倍受け、来たるべき世で永遠のいのちを受けます。

ここでペテロが言っているこの「**すべてを捨てて**」イエシュアに従うこととは、全財産を捨てるわけですから、それはつまり先ほど述べた「**貧しい人たち**」になる、ということになります。またこの行為はイエシュアの花嫁となり、イエシュアと一体となる、ということでもあります。

創世記【新改訳 2017】

2:24 それゆえ、男は父と母を**離れ**、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。

使徒パウロは、この御言葉をメシアであるイエシュアと、私たち教会を表す「型」であると説きました（エペソ人への手紙 5:32）。ですからここでのペテロの姿は、私たち教会を表していると考えられます。そしてそんなペテロに、イエシュアは「**迫害**」の存在を提示しておられます。これを世界史の中で起こってきた数々の教会に対する迫害、クリスチャンへの弾圧、今日もお続く文字通りの形での「**迫害**」を指し示しているとも考えられますが、ヘブル語の視点ではその意味が大きく異なります。「追跡する、追及する、迫害する」という意味のラーダフ(רדף)は本来、このような出来事で用いられました。

創世記【新改訳 2017】

14:14 アブラムは、自分の親類の者が捕虜になったことを聞き、彼の家で生まれて訓練された者三百十八人を引き連れて、ダンまで**追跡した**。

14:15 夜、アブラムとそのしもべたちは分かれて彼らを攻め、彼らを打ち破り、ダマスコの北にあるホバまで**追跡した**。

14:16 そして、アブラムは**すべての財産を取り戻し、親類の口とその財産、それに女たちやほかの人々も取り戻した**。

ここで「**追跡した**」と訳されているのが聖書で最初のラーダフです。「**迫害**」と訳されたラーダフですが、本来はこのように「**すべての財産を取り戻す**」すということを示す言葉なのです。つまりイエシュアの

ために「**また福音のために**」すべてを捨てても、失ってもそのすべてを取り戻すという意味と捉えることができるのです。そしてそれはどのように取り戻すことができるのか、それはここに記されているとおり「**アブラムとそのしもべたち**」となることによって、すなわちアブラハムの子孫イスラエルにつながる者となることによってそれはなされるということです。先に述べたように、イスラエルの民よりも先に、イエシュアのみもとに集められ、そして携挙されるのが私たち教会ですが、この地上で捨てたもの、失ったものを「**今この世で**」この地上で取り戻すのが「**神の国**」です。千年王国、メシア王国とも呼ばれる「**神の国**」はこの地上に建てられます。そしてその御国は、アブラハムとその子孫であるイスラエルの民によって祝福されるという秩序と法則を持った世界なのです。ですから当然私たち教会も彼らにつながる者とならなければなりません、いや神によってそのようになるのです。イエシュアはペテロを通して、私たち教会にその事実を神のご計画として示しておられるのです。いずれにせよイスラエルと教会、この両者はともに「**来たるべき世で永遠のいのちを受けます。**」それが「**神の国**」の民に対するそのご計画です。このイスラエルと教会に対する神のご計画の順序、位置づけを表して、この出来事の最後にイエシュアは次のように締めくくっておられます。

5. しかし

マルコの福音書【新改訳 2017】

10:31 **しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になります。**

「**神の国**」における「**先にいる多くの者**」それはイスラエル、ユダヤ人たちです。「**しかし**」その救いの順序、順番は「**後にいる多くの者**」すなわち教会が「**先になります**」。イエシュアの地上再臨の前に起こるイエシュアの空中再臨、これによる教会の携挙がその成就となります。

テサロニケ人への手紙 I【新改訳 2017】

4:16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

4:17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

4:18 ですから、**これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。**

もうほとんど毎回のようになっているこの御言葉ですが、「これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。」とパウロが勧めていますので、今日も語ります。しかし私たち教会にとって、これにまさる「励まし」が果たしてあるでしょうか。私たちが今抱えている悩みも痛みも、そして願いもすべてこの御言葉の成就によって、この携挙というただ一つの出来事によって、完全に、そして永遠に解決されるのです。ですからその場しのぎの、一時的な虚しいものに、慰めや励ましを求めのではなく「これらのことばをもって互いに励まし合い」その日の訪れをひたすらに待ち望んでまいりましょう。聖霊の助けがありますように。